



今回は、1年1組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち1班はスイーツ Homare を訪問しました

研究テーマ： 関市のもので関市をよりよく

日 時： 2019年8月1日(木) 9:00 ~ 12:00

訪問先： スイーツ Homare

参加者： 天野祐太、河村花緒、後藤青杜、玉腰都登、羽田野正季、細江俊希、吉田七海

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちはフィールドワークとして、ドーナツの販売を行った。ドーナツを売ることによって寄付金を集めることを考えたが、商売の難しさを実感することになった。また、この活動を通して地域の方々と交流を深めることができた。多くの地域の人と交流ができてよかった。

この販売で集めたお金を関市に寄付して、より住みやすい街をつくらせてあげたいと思う。



◇ 私たち2班は5店舗のお菓子屋を訪問しました

研究テーマ： スイーツの力で関市に笑顔を

日 時： 2019年8月2日 金 (10:00~12:00)、8日 木 (15:00~16:30)

訪問先： 虎屋、sweets homare、MINOV、たけや、孫六煎餅

参加者： 植木悠斗、小栗夕奈、酒向奏汰、劔音々香、中西翔、武藤勇樹、山田さくら

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



5つのお店からお話を聞かせていただいて私たちが特に強く感じたことは、せっかく関市をイメージしたお菓子があっても、関市外、岐阜県外の人にそれを知ってもらう機会がないということです。

そこから私たちは、関市の活性化のためには、市外・県外の方々に知ってもらうという機会作りから行っていくことが大切なのではないかと考えました。

そうした機会となるイベントを高校生の私たちが企画し主催することで、注目度も高まると思います。私たちが暮らしている関市なので、私たちの手で活性化へとつなげていくことが大切だと改めて感じました。





今回は、1 年 1 組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 3 班は洞戸キウイプラザ・関牛乳を訪問しました

研究テーマ: 地域特産品を使って、地域活性化に挑戦!

日 時: 2019 年 8 月 9 日(金) 14:00 ~ 15:00

訪問先: 洞戸キウイプラザ 関牛乳株式会社

参加者: 大塚彩未 大野健太 佐藤蒼空 高井美羽 仲山慎平 森羅大 山口佳乃

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



この企画は、洞戸キウイと関牛乳の牛乳を使用したアイスクリームを作ることで洞戸キウイを地域の外へ PR し、テーマ設定の目的である、「地域特産品を使って、地域活性化に挑戦」を達成しようとするものである。

フィールドワークを通して、洞戸キウイにはアピールすべき良さや特徴が多くあることが分かった。そんな洞戸キウイを知ってもらうため、instagram や twitter などの SNS を利用してキウイの魅力を発信することで、より多くの方が洞戸を訪れるきっかけとなり、地域活性化につながると考える。

洞戸キウイは刃物などと並んで関市の特産品であると考えます。そんな洞戸キウイを市外ひいては県外に発信することによって、少しでも洞戸キウイについて知ってもらい、関市の活性化につなげたいと願う。



◇ 私たち 4 班は農業生産法人 PLUS 株式会社を訪問しました

研究テーマ: 米粉による食料自給率の向上

日 時: 2019 年 8 月 10 日(土) 9:00 ~ 10:00

訪問先: 農業生産法人 PLUS 株式会社

参加者: 岩井里佳子 奥村允智 佐藤暖 繁ハナ子 幅遼太 森島杏菜

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



フィールドワークで分かったことは、米粉が高級であるということだ。また、2020 東京オリンピックの選手村で提供されることも知った。

米粉の長所は、アレルギー物質を含まないことである。米粉を活用することで、日本の食料自給率アップに貢献することができる。他にも、優れたアミノ酸バランスや油の吸収率が低く、ヘルシーであることなどがあげられる。

しかし現在、米粉の認知度は低い。また、生産コストも高い。学校給食に用いられたり、ドラマ「コウノトリ」で使用されたりしているが、こうしたことを通して認知度が上がるとよいと思う。





今回は 1 年 1 組フィールドワーク報告をします。

◇ 私たち 5 班は関市役所を訪問しました

研究テーマ：夜の地域の安全のために

日 時：2019 年 8 月 19 日(月) 13:00 ~ 14:00

訪問先：関市役所

参加者：井戸心温 河合勇希 近藤未涼 佐藤弘崇 日置大雅 丸山紗里奈

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちは防犯灯について調べました。

調べてみて防犯灯は設置したいところに必ずしもつけることができないそうです。地域の方からの要望はたくさんあるけれど追いついていないのが現状です。

だから夜の安全を守るためには設備に頼るだけではなく、例えば地域の方々とコミュニケーションをとって地域みんなで見回りをする活動を行っていくことが大切だと思いました。そのために地域行事に進んで参加したり地域の人とコミュニケーションをとったりすることで地域の現状を知り、よりよい地域を作っていきたいです。



◇ 私たち 6 班は当事者の方にお話を伺いました

研究テーマ：誰もが「あたりまえ」に暮らせる社会を考える

日 時：2019 年 8 月 17 日(土) 14:00 ~ 16:00

訪問先：関高等学校

参加者：市原加奈子、小島大生、児山綾菜、鈴木蒼生、平田拓真、古田唯夏、渡部桃子

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



実は日本には思ったよりも多くの LGBTの方がいることが分かりました。普段私たちがなんとも思わないことでも当事者の方達はすごく気にしていて、苦労しています。

また最近では、性的少数者を表す LGBT という言葉のほかに、人の属性を表す略称である SOGI という言葉が広まってきました。SOGI は当事者、非当事者の区別がなく、全ての人が当事者と言うことができ、より多くの人に性の多様性を身近に感じてもらえると思います。

私は今まで LGBT という言葉は聞いたことがあったけど、なんとなくでしか理解していませんでした。しかしフィールドワークを通して私は、当事者の方たちが思っていたよりも苦労していることや、私たちが普段何気なく使っている言葉が差別になっていることを知りました。これから私たちは、LGBTについて知り、変わり、受け入れることが大切だと思います。

